



今年も残すところ

今年も残すところ1か月を切りましたが、振り返ってみるとどんな1年だったでしょうか？と言っても、「この師走の忙しいときに1年を振り返ってなんかいられない」という声が聞こえてきそうです…!?そこで、図書館員の私が今年1年を振り返り心に残った本、是非みなさんに読んでいただきたいおすすめの本をご紹介しますと思います。

❖おすすめ図書その①

『あなたのことがだいすき』（角川書店）えがしらみちこ・文絵、西原理恵子・原案

この本は、作者のえがしらみちこさんが、西原理恵子さんのベストセラー『女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと』（角川書店）との出会いから生まれた本だそうです。もちろん原案の本もとても素晴らしい本のおすすめですが、絵本として出来上がった『あなたのことがだいすき』は、原案の良さを引き継ぎながら優しい絵が心を穏やかにしてくれる気がします。この本を読んだとき、子育て奮闘中だった遙か昔を思い出し、「そうそう」って共感させられました。そしてすぐに「娘に買ってあげよう」と思いました。娘はまさに1歳の子育て奮闘中の新米母です。最近子どもへの虐待や、子育てに悩んでの事件などをよく耳にしますが、実際の子育てはいつも笑顔ではいられないし、子育てで追い詰められることは誰でもあることです。そんなときにこの本を開いて、少しでも気持ちを落ち着けることができればと思います。私は最近の出産祝いには「大変だけど頑張ってるね」という願いを込めて、この本と一緒に贈っています。ぜひ一度読んでみてください。子育て中のお母さんには特におすすめです。

❖おすすめ図書その②

『まいにちがプレゼント』（金の星社）いもとようこ・作絵

英語の present（プレゼント）というと、私はすぐに「贈り物」という意味を思い浮かべますが、このほかに「今（現在）」という意味があるそうです。この本は、葉っぱから落ちようとしている雫を、ハリネズミが受け取ろうとして手を出している表紙の絵がとても印象的です。そして短い文章ですが、生きる勇気をもたらえる文が続きます。「やりなおすチャンスはまいにちやってくる。あなたのためにあたたかいきょうがやってくる」…など、是非大人の方に読んでいただきたい一冊です。最後にこの本のタイトルの意味がよくわかるはずです。

❁おすすめ図書番外編

『緑色のうさぎの話』（朝日出版社）道尾秀介・作、半崎信朗・絵

今年発行の本ではないのですが、私のおすすめ本です。この本は、人気作家道尾秀介さんが17歳の多感な時期に書いた絵本です。一匹だけみんなと色が違う緑色のうさぎが主人公です。みんなと違う故のいじめだったり、羨望だったり、和解など様々なことが盛り込まれています。最後は予想外の展開で考えさせられる一冊でした。ハッピーエンドな楽しい絵本ではありませんが、是非中高生に読んでもらいたい絵本です。

❁絵本はすばらしい！

今年私がとてもひきつけられた絵本を2冊と番外編1冊を紹介しましたが、絵本と聞くと小さい子どもが読む本というイメージが強いと思います。しかし絵本はなかなか奥深いものがあり、あの少ないページのなかにたくさんの思いが詰まっています。同じ本でも読む年齢によって感じ方が違ったりします。「なかなか本を読んでいる時間なんかない」という方でも、絵本は短時間で読めます。そして、そこから得るものは読書に費やした時間とは比べ物にならないほどの大きなものかもしれませんよ。

本探しのお手伝いをさせていただきますので、いつでも気軽に声をかけてください。スタッフ一同皆様のご来館をお待ちしております。（田代 安）